

報告

●市町連活動研究会

11月12日、市町連主催の活動研究会が「胆振東部地震における災害対応について」をテーマに39名の町内会長・自治会長が参加し、開催されました。

最初に、基地防災課から、この度の胆振東部地震における市の取り組み状況についての報告を受けた後、若草地区連、白樺南町内会の取組の報告を受け、意見交換に入りました。

参加した町内会長・自治会長からは、防災行政無線の蓄電池、断水の備えや情報発信、市と警察の連携、市からの情報提供、災害時の会館使用について等多くの課題に意見が出されました。最後に横道総務部長から、資機材関係

の備蓄品の準備不足、個別受信機の乾電池の確認、31年度実施予定の総合防災訓練や避難所訓練に対する協力要請及び避難所運営に対する地域との連携について挨拶があり、活発な議論のうちに閉会しました。



●「防犯カメラ設置に対する助成制度の創設について」要望書を提出

12月3日、「防犯カメラ設置に対する助成制度の創設について」の要望書を下原市町連会長他役員で原田市長に手渡しました。この要望書は、町内会からの「生活環境改善要望」や安全で安心なまちづくりの推進をテーマに開催された「市民の広場」のワークショップで防犯カメラ設置に対する要望が多く見られたことから、11月30日に開催された役員会で協議し、提出したものです。要望事項は、「町内会が防犯カメラを設置する際の助成制度を創設すること」、「防犯カメラを設置する際の「ガイドライン」を

策定すること」の2点です。

原田市長からは、「以前から議会などでも議論されており市民の広場でも意見が出ている。プライバシー保護等の課題もあるが、早急に検討していきたい」との回答をいただきました。



市町連活動記録

(2018.6.1~12.31)

- 7.10 町内会長・自治会長親睦交流会(交流会18名、懇親会27名参加)
- 7. 生活環境改善要望提出(43町内会)
- 10.16 平成30年度ブロック別町内会活動研究大会(下原会長他3名参加)
- 11.12 市町連視察研修(視察先:北島排水機場、北島遊水地、ごみ焼却施設建設予定地 32名参加)
- 市町連活動研究会(テーマ:胆振東部地

- 震における災害対応について (39名参加)
- 12.3 市に「防犯カメラ設置に対する助成制度の創設について」の要望書を提出
- .18 恵庭市理事者と町内会長・自治会長との懇談会
- 四役会議・5回 役員会議・4回
- 広報部会・2回

編集後記

◎ホームセンターでコクワ(サルナシ)の木を見かけた。子どものころ木に登り「尻がかゆくなるぞ」と言われるほどその実を食べ、熊のフンに遭遇した。山の食べ物が少なく街中に出没した多くの熊たちは、無事に冬眠できたのだろうか。(関)

◎平成最後の年があげた、昭和から続く平成を短く感ずるか、長く感ずるかは年代により相違があるだろう。後期高齢の私は、とてつもなく短く感ずる。(つ)

◎昨年、台風・地震で被害が出た恵庭市。初めて避難所開設もありましたが、多くの教訓、課題を残し、行政と住民をつなぐ市町連の働き方を改めて痛感しました。(わ)

◎人脈交流を助けられた上に、誌面には載らない情報にも触れることが出来、有意義でした。(キ)

募集!

紙面で紹介したい“ユニークな活動をしている人”“がんばる人”の情報をお寄せください。

発行 恵庭市町内会連合会 広報部会

事務局 市民活動推進課
恵庭市緑町2丁目1-1
緑と語らいの広場 えにあす
電話/0123-34-7000



恵庭市
町内会連合会報
2019.1
vol.11



恵庭市町内会連合会会長
下原 千城

新年あけましておめでとうございます。輝かしき新春を、ご家族おそろいで穏やかに迎えましたことに、心からお慶び申し上げます。

今、町内会では、急激な少子高齢化や地域住民の意識の変化、連帯感の希薄化等の課題を抱えながら、日々、安全で安心な地域づくりを目指し、様々な取り組みを進めております。

こうした中、今、改めて問われる事は「地域力」の復活であり、そのためには、地域住民の「つながり」を強化することが大切であると考えております。

昨年、9月6日、想像もしていなかった震度7の

「北海道胆振東部地震」が発生し、また、経験したことのない北海道全域に及ぶ「ブラックアウト」を体験しました。

「恵庭は災害が少なくない良いまち」と思っていたが、改めて地域住民の「つながり」の必要性を痛感し、そのことが災害時の助け合いや被害の軽減に繋がることを思い知らされました。

町内会は厳しい状況にありますが、皆さまには、町内会活動になお一層のご理解とご協力をお願い申し上げますとともに、平成31年が皆さまにとって素晴らしい年でありますようにご祈念申し上げます、年頭の挨拶といたします。



文字の歴史の中で「亥」の文字を題字のように書いた時代がありました。



白樺南町内会

胆振東部地震での 町内会対応



若草地区町内会連合会

胆振東部地震に災害対応の報告

白樺南町内会では、自主防災会を28年に設立し、翌年、自主防災組織等活動支援助成事業を活用して防災倉庫、発電機、投光機、防災釜等を購入しました。今年5月には、発電機等防災資機材の取扱いについて防災教育を行いました。

9月6日3時7分震度5強の胆振東部地震、そしてブラックアウトが発生しました。

停電当日、自主防災会役員から、「防災発電機を活用し、携帯電話等の充電所を開設しては？」との電話が入り、11時30分に開設準備を完了し、乗用車に拡声器を付け、町内会に「充電所開設」の放送を流しました。

結果、6日12時～21時までと7日6時～21時通電までの間に延べ290名の方が充電所を利用しました。

この町内会の取り組みに、子どもから高齢者に至るまで「有り難うございました」の言葉を頂き、自主防災会を立ち上げて良かったと感じました。

自主防災会として取り組んだほんの小さな活動でしたが、住民の安心確保に繋がり、町内会の「絆」に繋がったと思っています。



▲白樺会館横に設置した携帯電話等充電所

避難所運営で住民どうしの架け橋に

9月6日震度5強の地震発生をうけ、町内を巡回したが異常がなく、避難所開設については市の指示を待つことを確認。その後、市町連から、災害発生時に24箇所を避難所として開設したが、17時からは収容避難所を7箇所に集約するとの連絡を受けたので、若草地区収容避難所の柏陽憩いの家の状況を確認に向く。すでに避難所には約60名の避難者があり、管理人と市職員で対応をしていたが、職員は全ての情報を把握しておらず、また、避難者からはさまざまな要求が押し寄せており、職員だけの避難所運営は困難と判断し、若草地区連で避難所運営の支援をすることとした。

顔見知りの町内会役員が避難所運営に関わったことにより、避難者に安心感が生まれた。また、避難者の学生の協力を得ることができた等、今回の避難所運営では行政や他人任せの運営ではなく、自助・共助を積極的に進めたことにより、町内会が行政と地域住民の橋渡し役として機能することが出来た。



災害復興に小さな善意の灯 恵み野北町内会

恵み野北町内会（渡邊三好会長）では、東日本大震災と熊本地震の発災から毎年義援金を募り、社協を通じて日本赤十字社に寄託して



いますが、今年7月西日本豪雨、9月北海道胆振東部地震と大きな被害がつかまりました。そこで、10月二つの復興支援チャリティーを企画。自ら基金を設けて東日本の被災地訪問を続けておられる土田英順さんのチェロコンサートでは51,240円の善意が寄せられ、そのまま「じいたん基金」に寄託、二胡とマリンバの演奏と腹話術による防災落語会では36,865円の愛の善意が集まり、西日本豪雨、北海道胆振東部地震義援金として原田市長、社協から日赤へと寄託しました。

今年、三回の催事での義援金は10万円を超え、心から感謝するとともに来年も小さな善意の灯を消さないよう寄託を続け、全ての被災地の一日も早い復興を祈りたいと思います。

柏地区体験合宿 柏地区町内会連合会

「柏地区体験合宿」は柏小学校4年生から6年生を対象とし、様々な体験学習を実施している地域の取り組みの一つです。今年度は、10月4日（木）～6日（土）の2泊3日の日程で実施されました。

子どもたちは、体育館での宿泊で段ボールを使いベッドづくりをし、避難所となる柏小学校の避難所運営を、地域の大人と一緒に考えました。また、学校の樹木の名前調べと名札作りなど充実した体験学習が展開されました。

避難所運営の意見交換で、参加した6年生の子から、「避難所生活で一番大切なことは、周りの人への思いやりの心だと気付いた」との発言があり、この一言に参加していた大人の皆さんは、大きな感動と力を貰ったのではないのでしょうか。

今後も、子どもたちの成長に期待し、取り組みを続けていきたいと思っています。



敬老会を開催 住吉町内会

恒例の住吉町内会敬老会を10月20日の土曜日に開催しました。

例年、9月の第2土曜日を開催日としていますが、北海道胆振東部地震の影響により、急遽延期となり、1か月遅れの開催となりました。

75歳以上の対象者が201名で出席者は45名。タクシーによる送迎を初めて行うなど町内会福祉部、事業部、女性部を中心に民生委員の方々を含む役員や町内会会員の協力をいただいた中で、開催されました。

祝宴では、和光いきいきクラブ踊りの会の皆様の日本舞踊、すみよしビューティーおねーやんずの仮装パフォーマンス、参会者のカラオケが披露された後、くじ引き大会で楽しい一時の幕を閉じました。

すずらん踊りに島松700人

8月の第1日曜日、毎年島松駅前通りで「しままつ鳴子まつり」が開かれる。10時間を超えるこのまつりを一時休止、午後4時から1時間「郷土芸能すずらん踊りパレード」が実施される。昨年この日は晴天に恵まれ、島松地区5町内会を先頭に陸上自衛隊島松駐屯地、恵北中学校、地元企業、市職員や市議会議員団、すずらん踊り保存会など13団体600人がエントリー。この他、フェスティバル出場のよさこいチームメンバーが飛び入り参加、700人以上がすずらん踊りに参加した。

「えにわ踊りだシャシャンコシャシャン」と軽快なリズムにあわせて、踊り手も見物人も短い盛夏を楽しむ一大イベントになっている。まつり期間中、歩行者天国となつた通りは、最後の打ち上げまで市民の熱気であふれていた。

このまつり、地域住民で組織する島松夏祭り実行委員会が主催。第1回すずらん流し踊りが行われた昭和48年以降、島松地区のすずらん踊りは跡絶えたことはない。



おもしろ恵庭学

第10回

開通時は鉄道祭と
駅弁を販売

文責：恵庭昭和史研究会 林 嘉男

恵庭は交通の要所。その先駆けが鉄道でした。大正15年8月21日に町民待望の鉄道が通りました。この時の喜びを末広町に住む高木力義さん（92歳）は「今、覚えてい

る人は少ないけれど、毎年8月23日から24日に鉄道記念日のお祭りがあったんだよ。そりゃー大勢の人と出店が出て、賑やかなものだった。」と、話す。当時は、国鉄でなく、北海道鉄道が経営。停車時間が長く恵庭から苗穂まで1時間以上もかかった。運賃は恵庭～苗穂間で88銭。当時の理髪料金が80銭位だから比較するとかなり高い。駅前には福本食堂があって、昼頃、苫小牧から到着する客車を

待って駅弁として、いなり寿司を乗客に売った。今は札幌まで快速で約30分程度に短縮された。ちなみに現行運賃は札幌まで640円。



▲恵庭駅で駅弁を売る福本さん